

登録コード:MH127400 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	老年看護学実習 (老人保健施設実習)【20M・21M】 Geriatric Nursing : Clinical Practice			
担当教員	會田 信子 他 塚田 尚子			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/3・4年		不定期	集中・不定期
単位数、講義室	2単位		遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。		家族に対する尊厳あるケアのあり方を振り返り、自己の老年看護観を記述できる。	
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。		高齢者の健康状態や生活機能、環境および人生観などの情報から、看護問題（ニーズ）を科学的、全人的に分析し、高齢者の生命活動とQOLを維持し高めるための援助方法を記述できる。	
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		看護師に必要な老年看護学の知識・技能を修得し、介護老人保健施設での高齢者ケアに活用できる。	
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。		高齢者やその家族、チーム関係者とコミュニケーションをとりながら適切な関係を形成し、自身の対人関係形成・協働力について振り返ることができる。	
	多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができる。		高齢者ケアにおける倫理的・法的・社会的課題を多面的に分析し、課題克服に向けての方法について考察し記述できる。	
授業で学べる「テーマ」	地域運営、健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	本実習では、介護老人保健施設を利用している高齢者を受け持ち、老年期に特有の疾患・障害および老年症候群などによる生活機能障害に対して、個人のニーズに即した看護支援の基盤となる実践力を習得するとともに、自身の老年看護観を涵養することを目的としています。 本実習では、2年次の「老年健康生活論」「老年看護学概論」「臨床老年看護論」「老年看護方法論」で学んだ基礎知識をもとに看護ケアの実施・看護問題の分析をすることになります。 本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。 本実習は、担当教員の医療機関や高齢者福祉施設における看護師としての実務経験を活かして指導を行います。			
授業計画	松本市と安曇野市内の介護老人保健施設6施設のいずれかで実施する(1施設に学生3～6名を配置)。 実習期間は2週間。実習時期は別途、ローテーション表を確認のこと。 第1日目(学内):実習オリエンテーション,技術演習 第2日目(臨地):施設内オリエンテーション,実習方法に即して実施 第3日目(学内):実習記録の補完と実習計画に即した自己学習 第4日目(臨地):実習方法に即して実施 第5日目(臨地):実習方法に即して実施 第6日目(臨地):実習方法に即して実施 第7日目(臨地):実習方法に即して実施 第8日目(学内):実習記録の補完と実習計画に即した自己学習 第9日目(臨地):実習方法に即して実施 第10日目(学内):倫理的・法的・社会的課題のグループワークと共有,実習の総括【授業評価アンケート】 「学校保健安全法施行規則」第18条第2項にもとづき、新感染症等が発生した場合等には、本学や実習施設の指針・方針を基本としたうえで、実習プログラムを変更する場合があります。			
授業の進め方	1) 事前課題と学内演習を通して、老年看護学に必要な知識・技術の基礎的事項の理解を深める。 2) 施設見学をしながら、施設の設置理念・目的、利用している高齢者の特徴、事業内容、施設設備の構造・特徴、職種・職員数および日課・週課などの説明を施設担当者から受ける。 3) 高齢者の生命活動とQOLを維持し高めるための援助方法のあり方を検討するために、高齢者1名を受け持ち、ケア・処置の見学・実施を通して、看護を展開する。 4) 受け持ち高齢者とのコミュニケーションを振り返り、コミュニケーション機能の変化に配慮した関係性のあり方を記述する。 5) 日々のカンファレンスや実習記録を通して、看護師として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範、高齢者・家族に対する尊厳あるケアのあり方について考え、意見交換をする。 6) グループワークにより、家族を含めた高齢者ケアにおける倫理的・法的・社会的課題に関するテーマを取り上げ、今後の展望を考察し発表・意見交換をする。 7) 実習での体験や学びを通して、自身の老年看護観をレポートにまとめる。			

テキスト，教材，参考書	テキスト： 1) 會田信子他(編), 最新老年看護学(最新版), 日本看護協会出版会 2) 堀内ふき他(編), ナーシング・グラフィカ老年看護学 (最新版), メディカ出版 . 3) 野尻晋一(著), リハビリテーションからみた介護技術(最新版), 中央法規 . 参考書：実習中に、随時、提示します。
成績評価の方法	成績評価は、各目標を20%の配分比として、目標の達成度の合計点で実施します。なお各目標は、次記の方法で評価します；目標1（最終レポート、実習態度）、目標2（実習記録・看護の展開）、目標3（事前課題、初日の技術演習）、目標4（実習記録・コミュニケーションの振り返り、実習態度）、目標5（グループワーク課題）。
成績評価の基準	成績評価の方法の配分比の合計点にもとづき、判定基準は、90-100点(秀)、80-89点(優)、70-79点(良)、60-69点(可)、60点未満(不可)とします。なお、評価方法の基準は下記の通りとします。 1) 最終レポートと事前課題（各10点）： 指定された課題に即した内容である、誤字脱字がなく、主述関係が明確で、適切な文章表現である、提出フォームが指定用紙・書式にそっている、引用・参考した箇所について指定書式にそって明記されている、指定期日までにeALPSに提出されている。 2) 実習態度（20点）：実習ガイドライン『看護学生の倫理』に則った行動・言動がとれているかを基準として評価します。 3) 実習記録（各20点）： 提示された課題を理解し必要な記述がされている、事実(情報)にもとづき、既習の学習知識を活用して分析(情報の意味付け、重みづけ、関連づけ)ができている、対象を全人的にとらえた看護問題と看護の必要性が記述できている、その日の実習体験をもとに自身の課題が明らかにされている、記録の遅延がない。 4) グループワーク課題（各10点）： グループワークでは、メンバーの意見・反応等に応じながら、協働的・建設的に参加している、発表では、聞き取りやすく（声の大きさ、抑揚など）、理解しやすい話し方で伝えている、意見交換では、発表者に意識を向けて静かに聞いて、発表者に不快な態度をとらない、課題内容は、専門的視点から分析し、他グループからの質問を踏まえながら論理的に説明できている、指定された期日に課題を提出し、時間内に発表をしている。
事前事後学習の内容	【事前学習】 事前学習課題があります。指定期日までに実施して下さい。また、これまでの学習内容を復習しておいて下さい。配置された実習施設の情報を収集し、実習前にならず下見に行き、交通手段や所要時間などを確認して下さい。 【事後学習】 実習記録の中で、日々の学習課題を指示しますので行って下さい。その他、現場での体験から生じた疑問点などは、主体的に調べたり、同級生とディスカッションしたりして下さい。 本授業の単位取得には90時間の学習が必要です
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	・国家試験受験資格の必須科目です。無断で欠席した場合は、単位認定を受けることができません。 ・実習記録は、電子記録で行います。個人情報保護の取扱いには十分に注意して下さい。 ・オフィスアワーは随時としています。実習を直接指導する五十嵐（助教）に、事前にメールでアポイントをとって下さい。 実習指導担当者：塚田尚子，igarashi_naoko@shinshu-u.ac.jp 科目責任者：會田信子，aida@shinshu-u.ac.jp